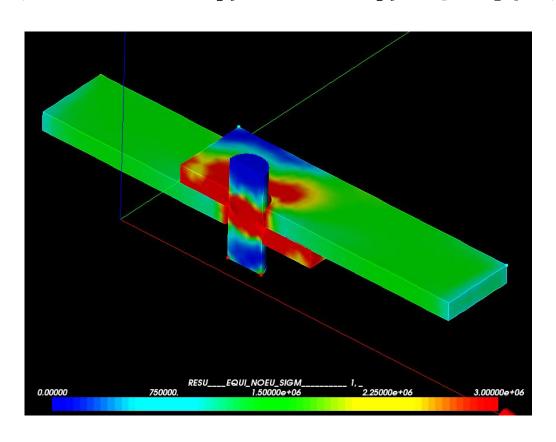
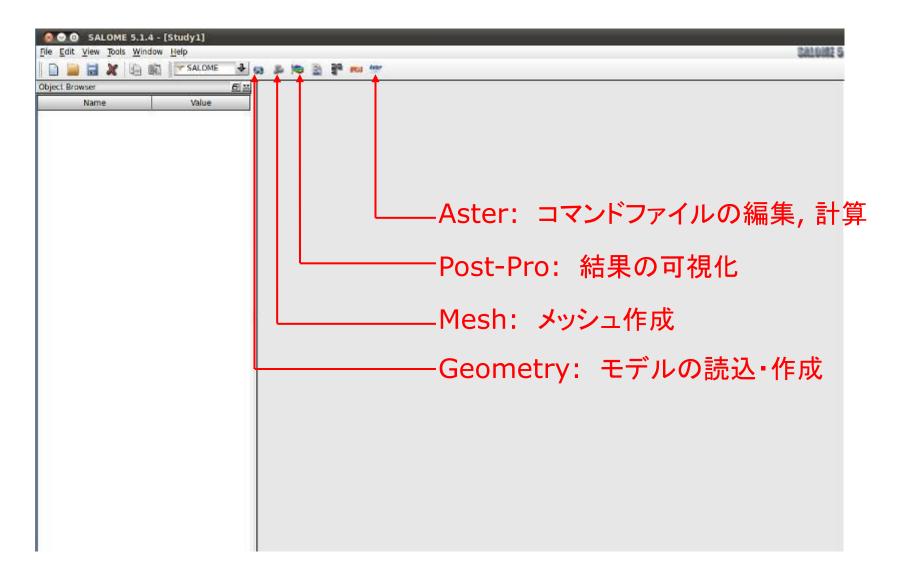
DEXCS-SALOMEを用いた 普通ボルト接合の接触解析



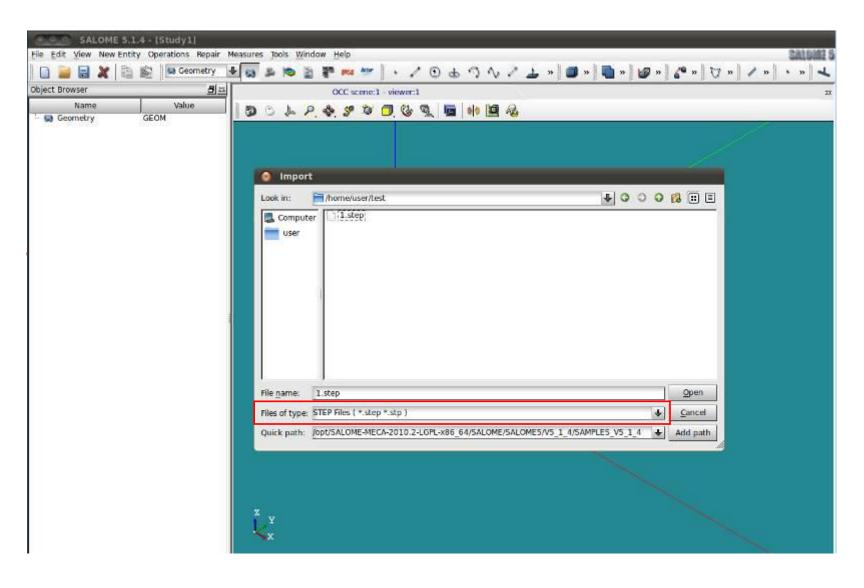
0. モデルの読み込み_1

SALOMEを起動 ⇒何も読み込まれていない状態



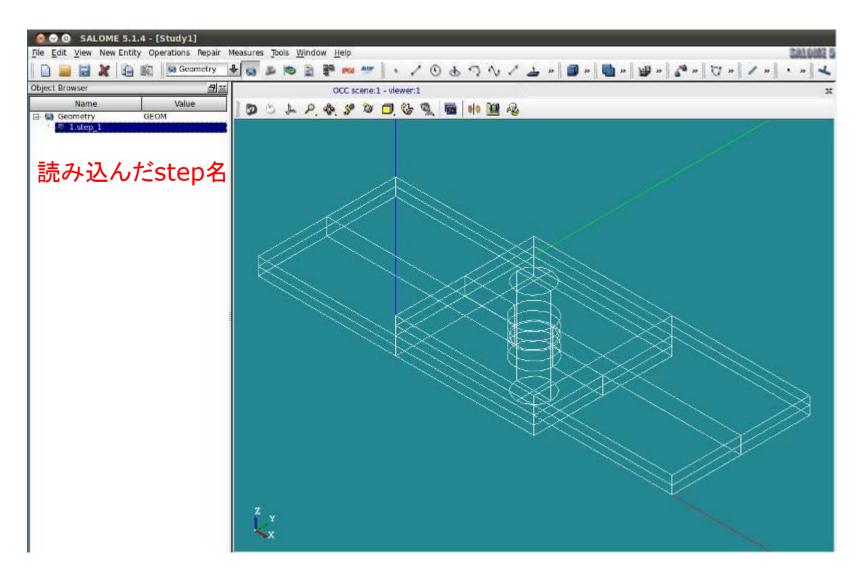
0. モデルの読み込み_2-1

Geometry画面でモデルをインポートして読み込む(例: 1_step_1)



0. モデルの読み込み_2-2

Geometry画面でモデルをインポートして読み込む(例: 1_step_1)



1. モデル作成_1-1

普通ボルト接合

ボルト:ボルト径 20.0mm

高さ 55.0mm

鋼板:孔径 22.0mm

幅 80.0mm

長さ 160.0mm

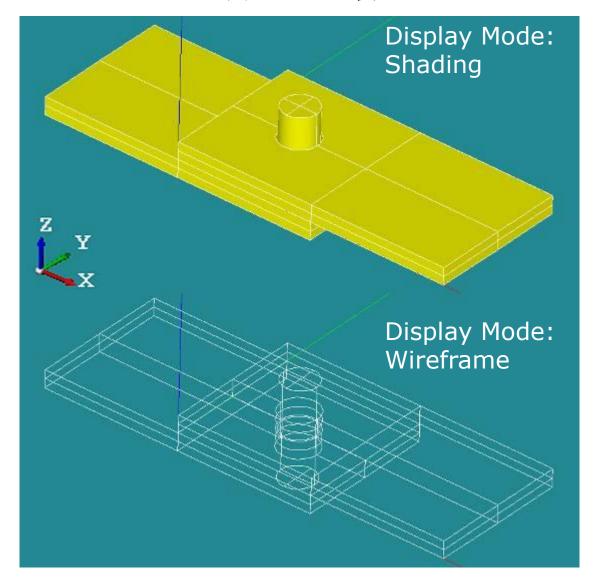
クリアランス: 1.0mm

- ・下の鋼板の左端部を固定
- ・上の鋼板の右端部に荷重

ボルトと鋼板の外部・内部の変位と相当応力も確認

⇒半分に分割

※SALOME内の寸法はメートル表示



1. モデル作成_1-2

普通ボルト(分割)モデル作成の流れ

モデルを読み込む

- ⇒基準となる平面を作るための点(Vertex)と方角(Vector)を作成
 - ⇒分割基準平面(Plane)を作成
 - ⇒平面を基準としてモデルを分割(Partition)

元のモデル形状の1/2を解析で使用

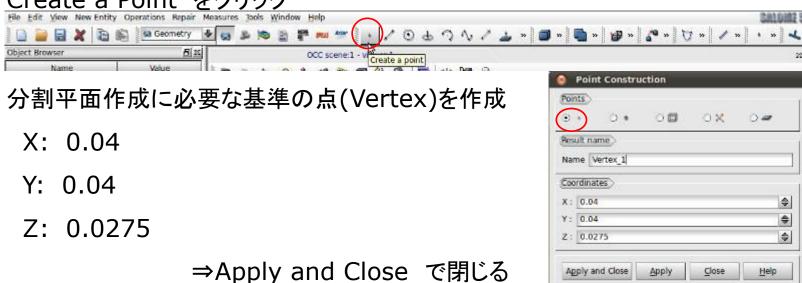
⇒3つのオブジェクトにグループ化(create group)

ボルト(bolt), 上板(plateU), 下板(plateD)

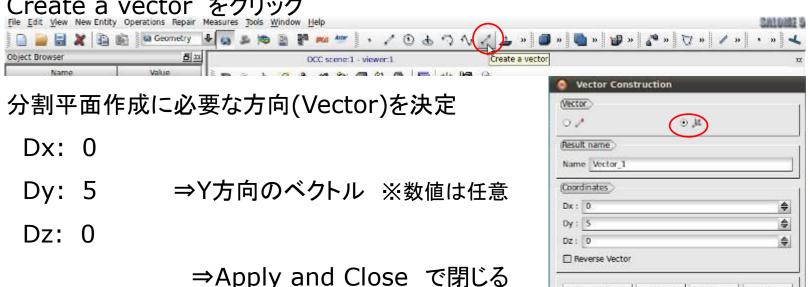
- ⇒一旦この3つの要素を合成(Compound)
 - ⇒上板と下板の位置を修正(Translation)
 - ⇒位置を修正した板とボルトを再び合成(Compound) 拘束面,荷重面,接触面などを詳細に決定

1. モデル作成_2-1 点と方向を選択

Create a Point をクリック







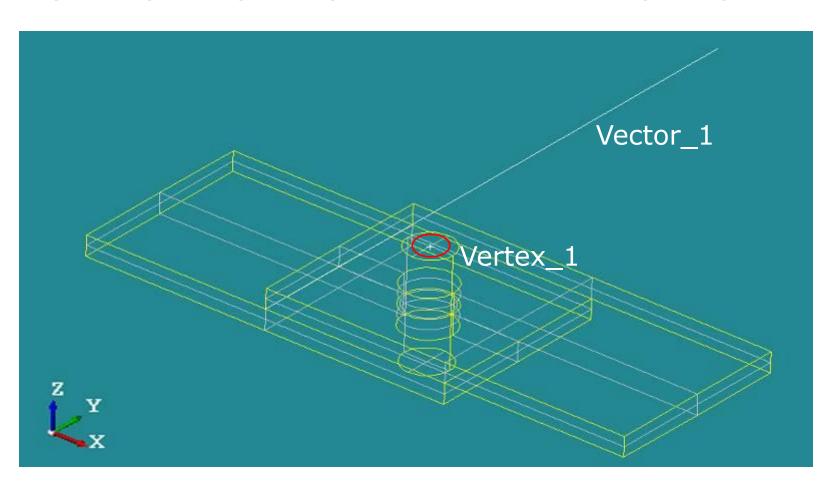
Apply and Close

Apply

Close

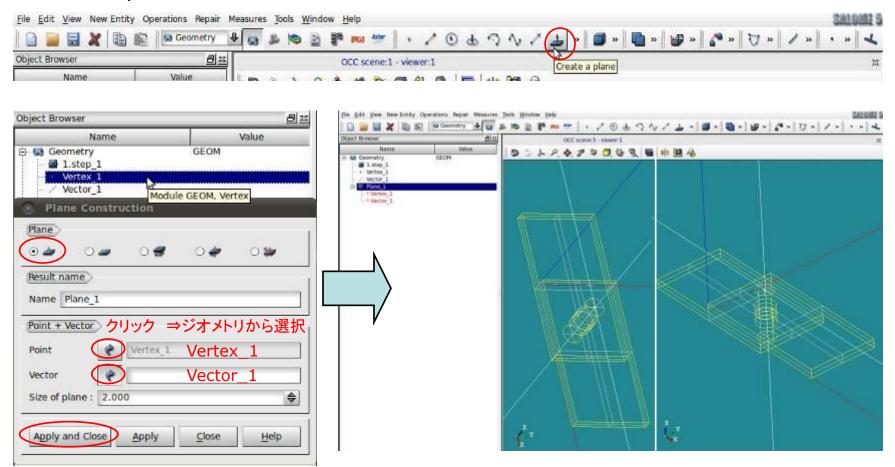
1. モデル作成_2-2 点と方向を選択

点(Vertex)と方向(Vector) ⇒これらを元に分割平面(Plane)を作成



1. モデル作成_3 分割基準平面を作成

Create a plane をクリック

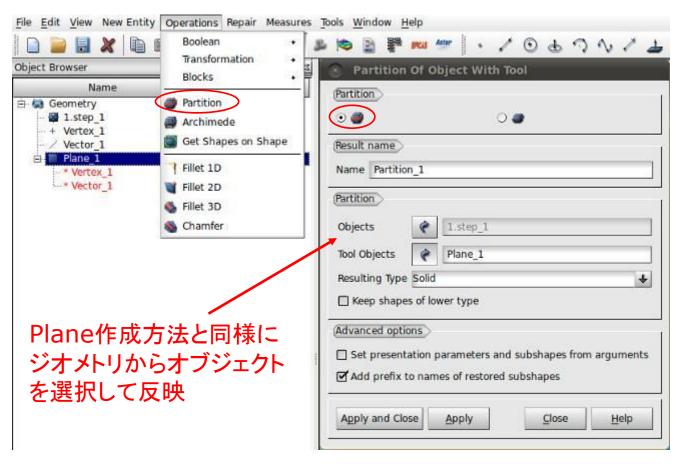


ツリーからVertex_1を選択後, 矢印クリックで欄内に反映 (Vector_1も同様に選択・反映) ⇒Apply and Closeで閉じる 平面(Plane)が画面上に作成される

Y軸に対して垂直で、Vertexを通る平面 (モデルの中央を通っている)

1. モデル作成_4-1 モデルを分割

Operations ⇒Partition をクリック



Objects にstepファイル(ここでは1.step_1)

Tool Objects にPlane_1 を選択

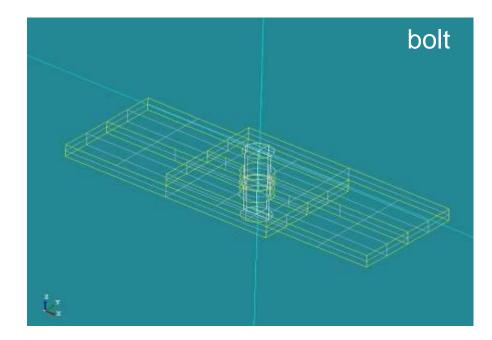
⇒Apply and Close で閉じる

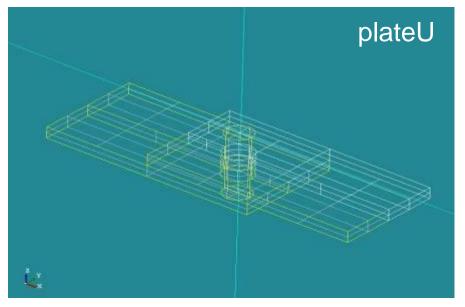
1. モデル作成_4-2 モデルを分割

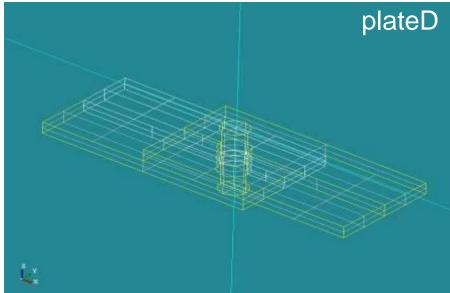
分割(Partition)でモデルを6分割

Create Groupで 3つのオブジェクトグループを作成

- ・ボルト(bolt)
- ·鋼板(上)(plateU)
- ·鋼板(下)(plateD)

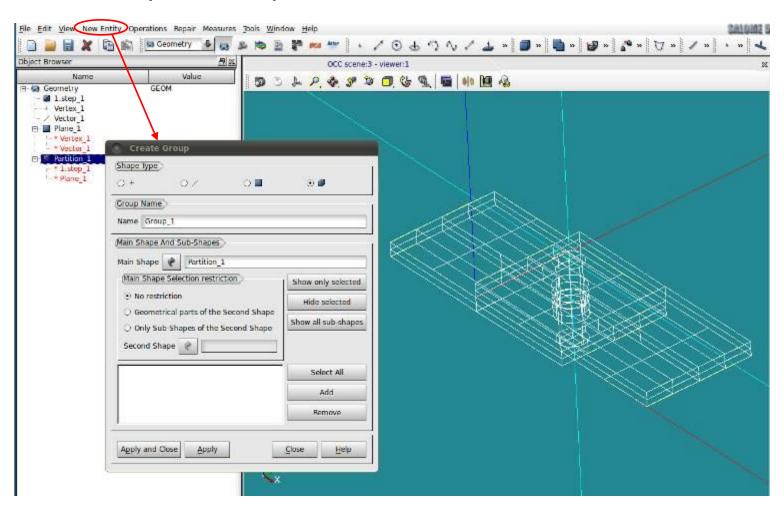






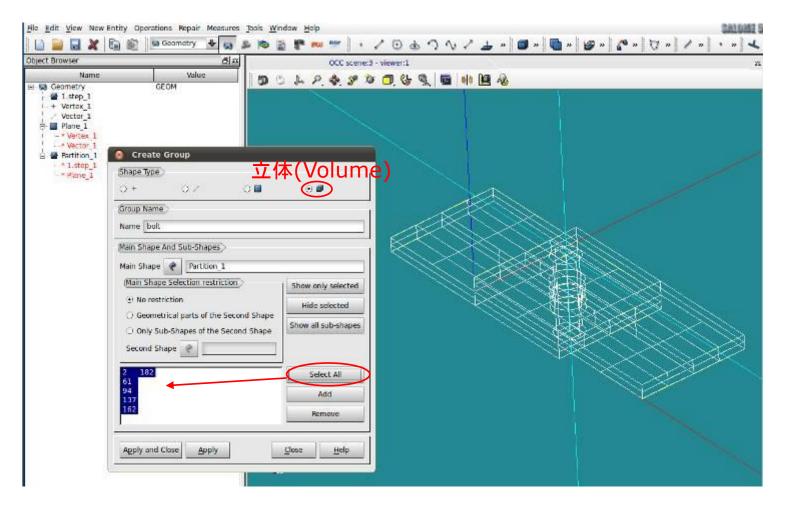
1. モデル作成_4-3 グループ化

New Entity ⇒Group ⇒Create



1. モデル作成_4-4 グループ化

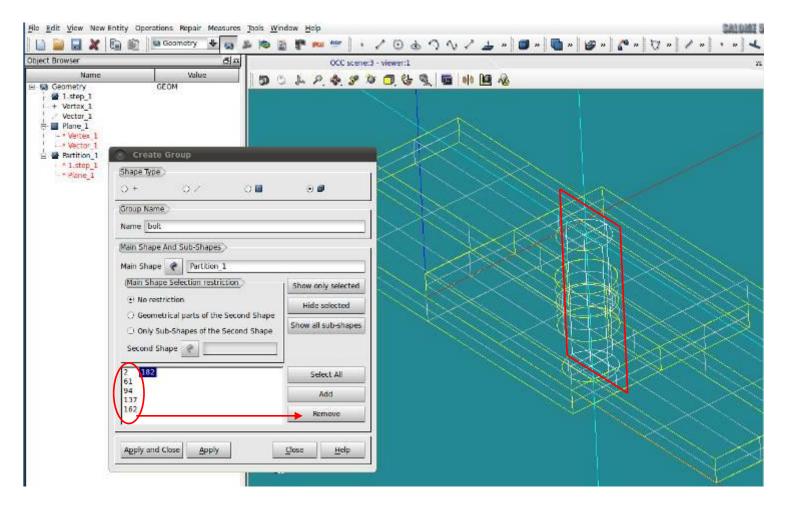
グループ: bolt を作成



現段階でモデルはPlaneを基準として6分割されている ⇒Select Allで全てのオブジェクト(番号表記)を選択

1. モデル作成_4-5 グループ化

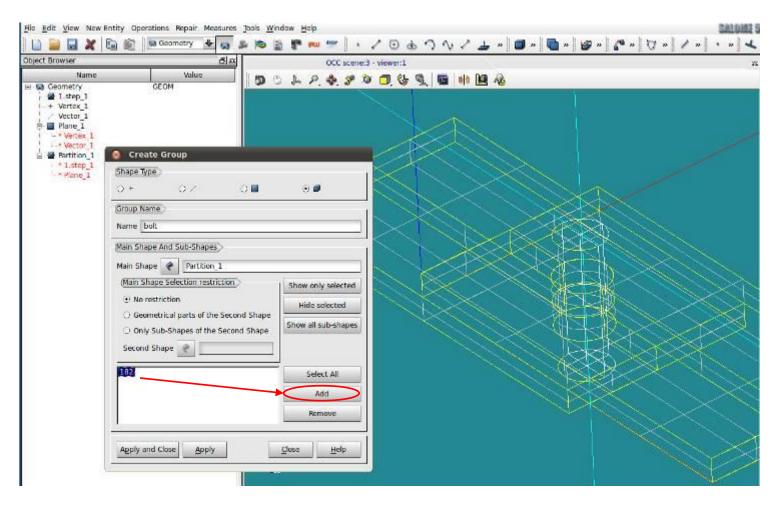
グループ: bolt を作成



182番(ボルトの半分)以外はRemoveで削除 ⇒182のみをAddで選択 ⇒Apply and Close

1. モデル作成_4-6 グループ化

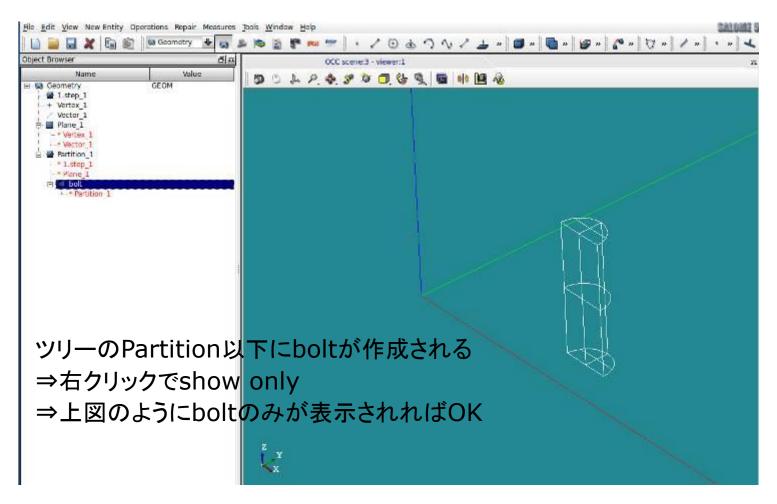
グループ: bolt を作成



182番(ボルトの半分)以外はRemoveで削除 ⇒182のみをAddで選択 ⇒Apply and Close

1. モデル作成_4-7 グループ化

グループ: bolt を作成



plateU, plateDも同様に作成 ⇒ツリーに追加

1. モデル作成_4-8 グループ化

bolt(ボルト)と同様の方法で
・plateU(上板)
・plateD(下板)
を立体(Volume)で
グループ化してツリーに加える

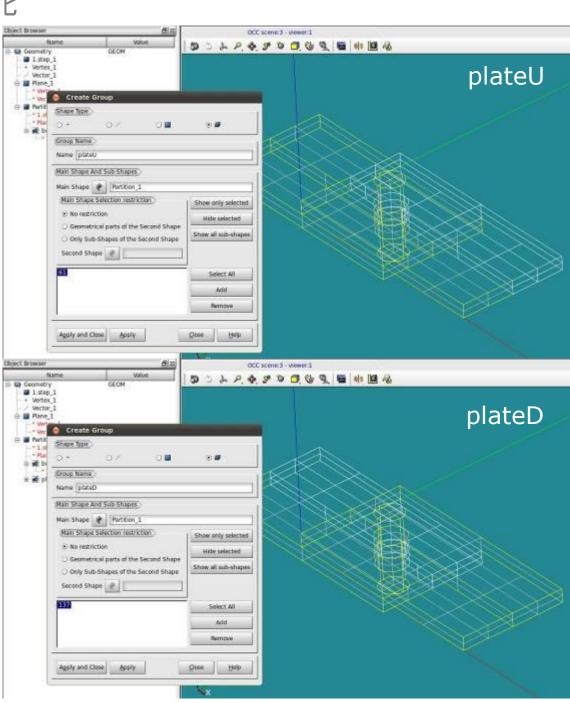
手順
Shape Type

⇒Name

⇒Add

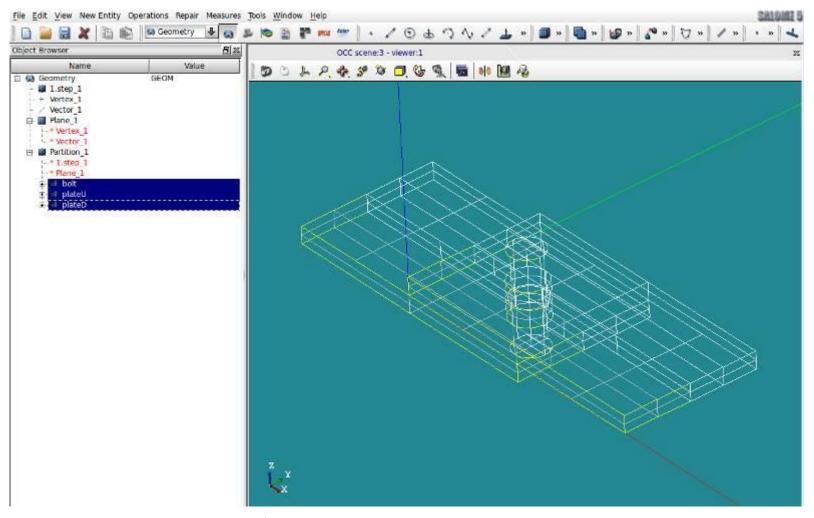
(もしくはSelect All)

⇒不要なオブジェクトを
Remove
⇒完了



1. モデル作成_5-1 合成

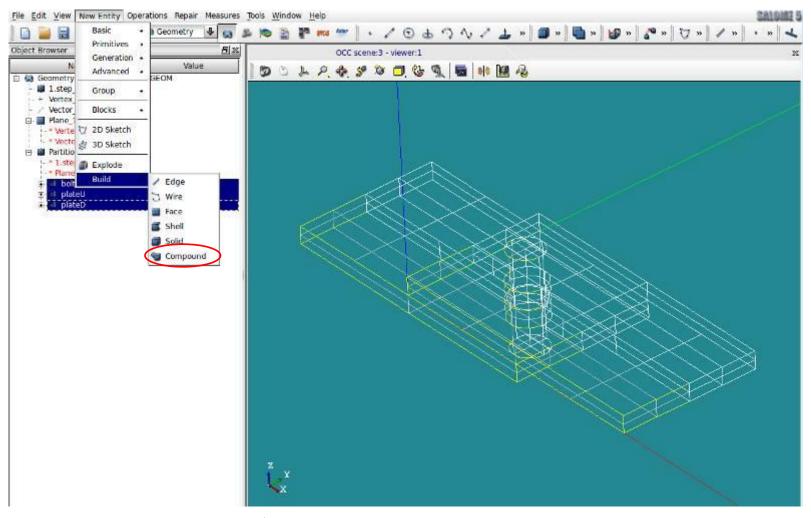
Partitionツリーのbolt, plateU, plateD を選択状態にする
New Entity ⇒Build ⇒Compound



矢印クリックで3つのオブジェクトが全て選択される

1. モデル作成_5-2 合成

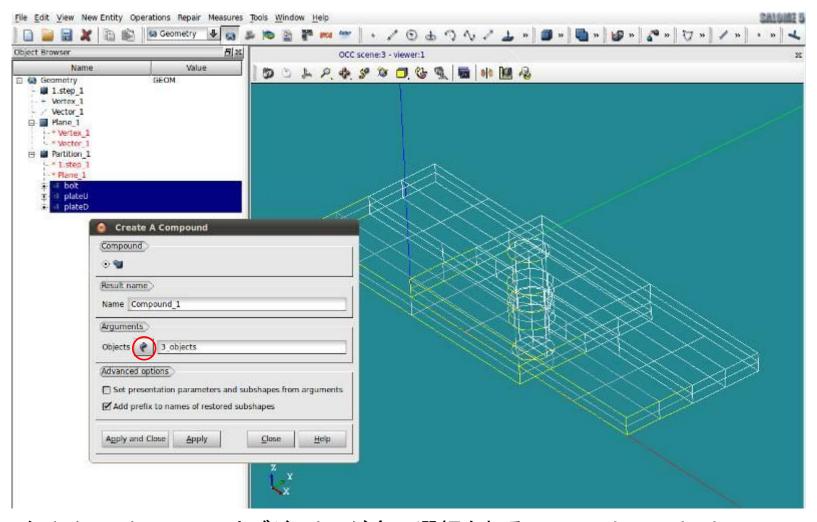
Partitionツリーのbolt, plateU, plateD を選択状態にする
New Entity ⇒Build ⇒Compound



矢印クリックで3つのオブジェクトが全て選択される

1. モデル作成_5-3 合成

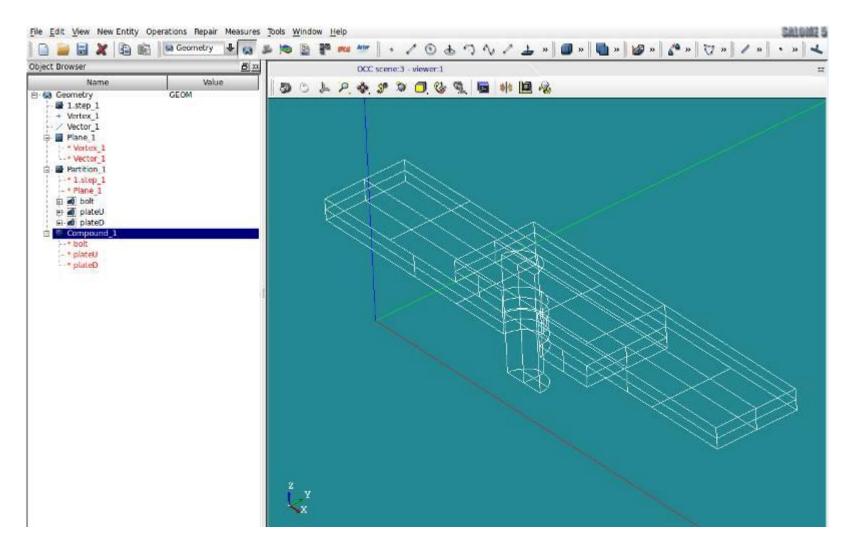
Partitionツリーのbolt, plateU, plateD を選択状態にする New Entity ⇒Build ⇒Compound



矢印クリックで3つのオブジェクトが全て選択される ⇒Apply and Close

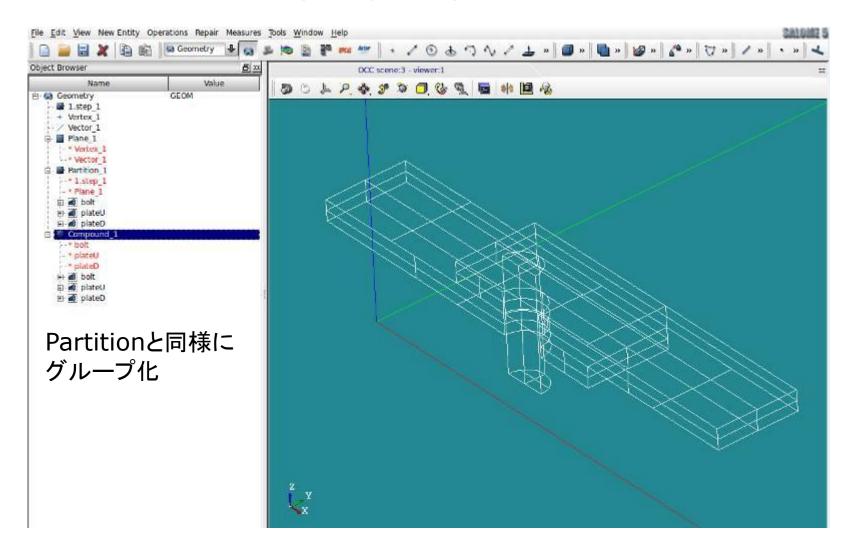
1. モデル作成_5-4 合成

合成(Compound)後の状態



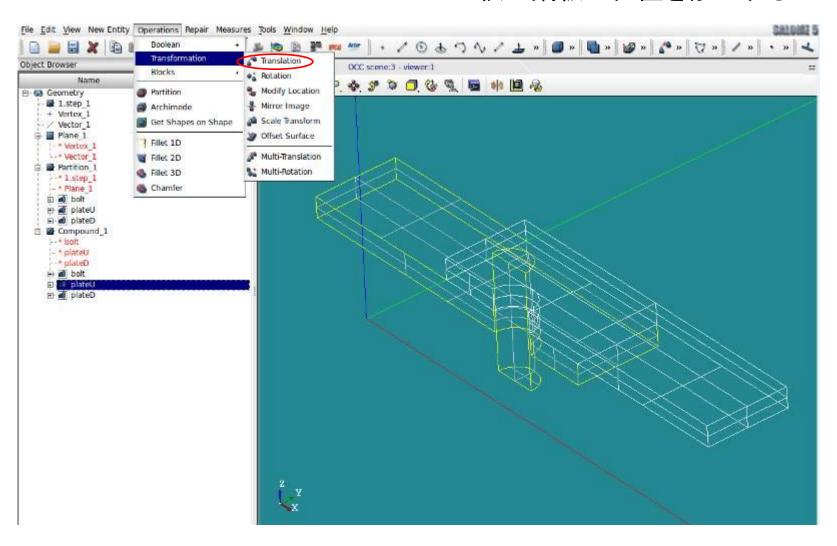
1. モデル作成_5-5 合成

合成(Compound)後の状態



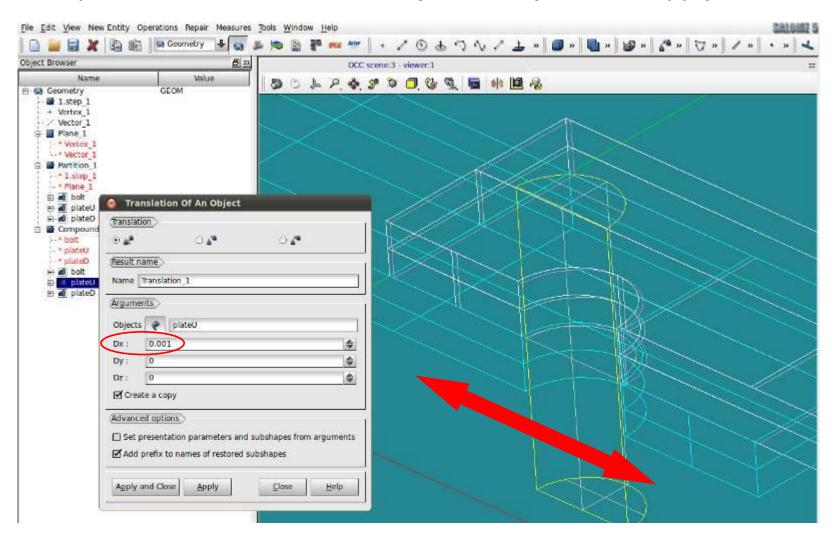
1. モデル作成_6-1 鋼板の位置を修正

Transformation ⇒Translation で2枚の鋼板の位置を修正する



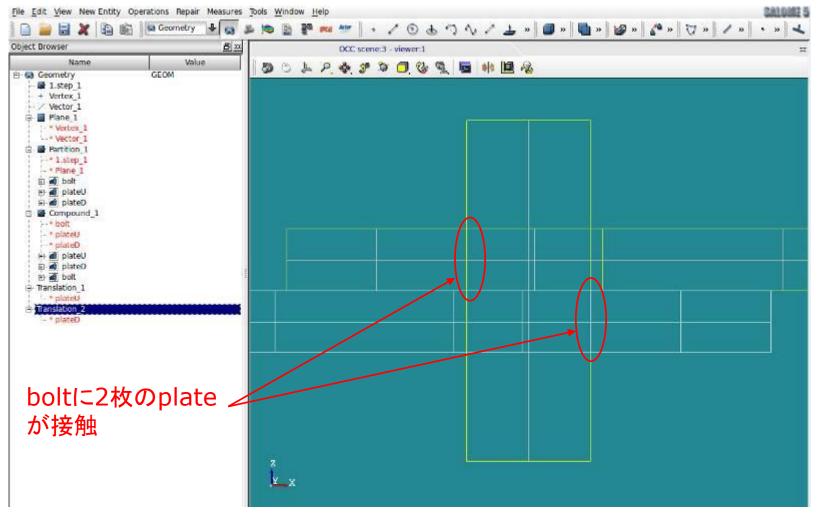
1. モデル作成_6-2 鋼板の位置を修正

plateU をDx方向に0.001m(+1.0mm) 移動 ⇒Apply 同様に, plateD をDx方向に-0.001m(-1.0mm) 移動 ⇒Apply and Close



1. モデル作成_6-3 鋼板の位置を修正

plateU をDx方向に0.001m(+1.0mm) 移動 ⇒Apply 同様に, plateD をDx方向に-0.001m(-1.0mm) 移動 ⇒Apply and Close

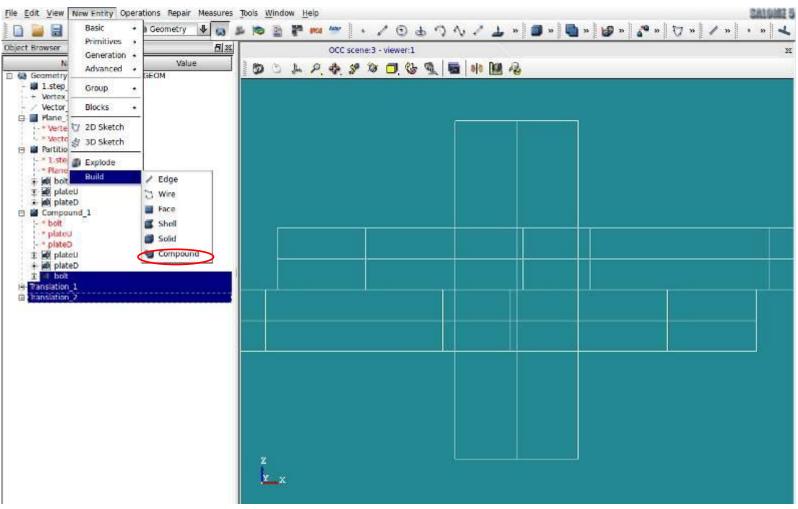


Compound_1からbolt, Translation_1, Translation_2を可視化した状態

1. モデル作成_7-1 荷重面・拘束面の決定

bolt, Translation_1, Translation_2をCompound

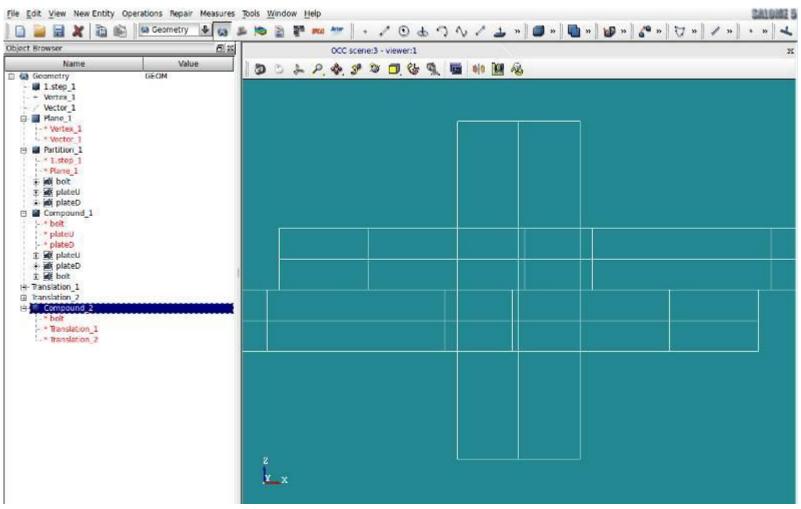
⇒Compound_1と同様に立体(Volume)だけでオブジェクトグループを作成 New Entity ⇒Group ⇒Create ⇒plateU, plateD, bolt



1. モデル作成_7-2 荷重面・拘束面の決定

bolt, Translation_1, Translation_2をCompound

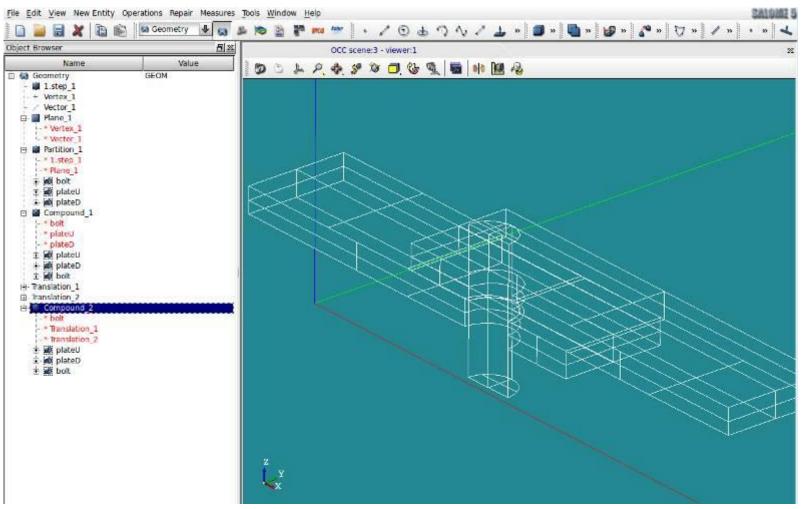
⇒Compound_1と同様に立体(Volume)だけでオブジェクトグループを作成 New Entity ⇒Group ⇒Create ⇒plateU, plateD, bolt



1. モデル作成_7-3 荷重面・拘束面の決定

bolt, Translation_1, Translation_2をCompound

⇒Compound_1と同様に立体(Volume)だけでオブジェクトグループを作成 New Entity ⇒Group ⇒Create ⇒plateU, plateD, bolt



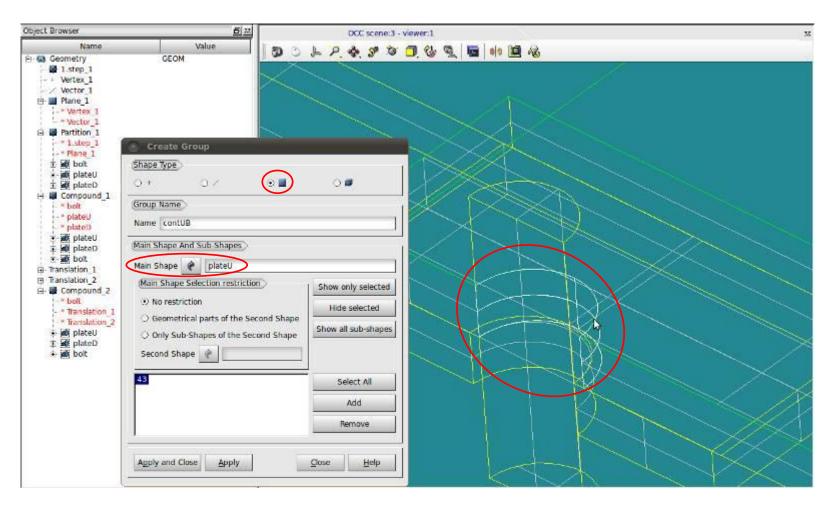
1. モデル作成_7-4 荷重面・拘束面の決定

Shape Typeは面(Face)を選択してグループ作成

例) Shape Type: Face / Main Shape: plateU

Name: contUB =上板(plateU)がボルトと接触する面

Name: pull =荷重面(+X方向に引っ張る)



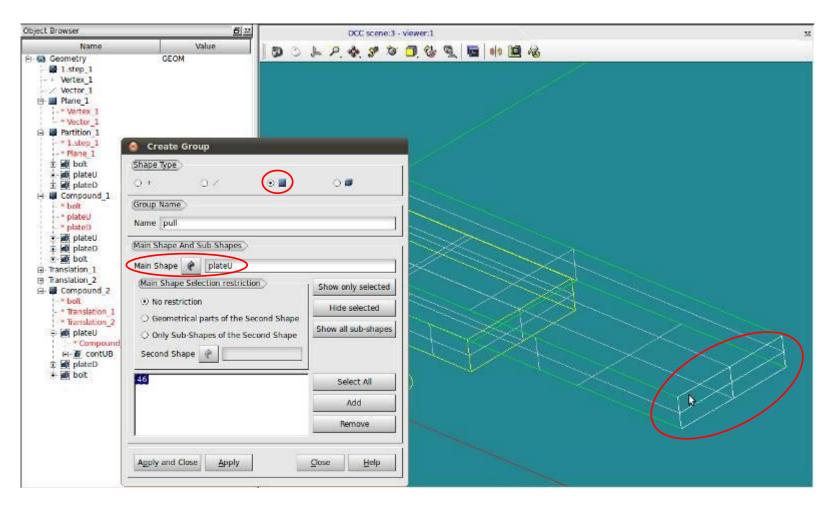
1. モデル作成_7-5 荷重面・拘束面の決定

Shape Typeは面(Face)を選択してグループ作成

例) Shape Type: Face / Main Shape: plateU

Name: contUB =上板(plateU)がボルトと接触する面

Name: pull =荷重面(+X方向に引っ張る)



1. モデル作成_7-6 荷重面・拘束面の決定

plateU:

接触面(contUB)

引張面(pull)

Shape Type: Face

Main Shape: plateU

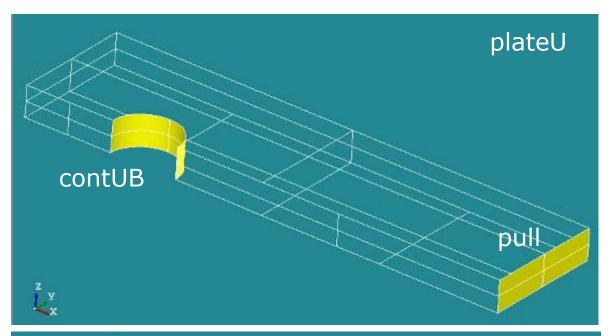
plateD:

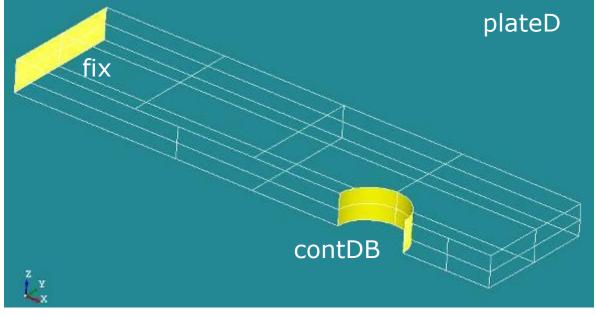
接触面(contDB)

引張面(fix)

Shape Type: Face

Main Shape: plateD



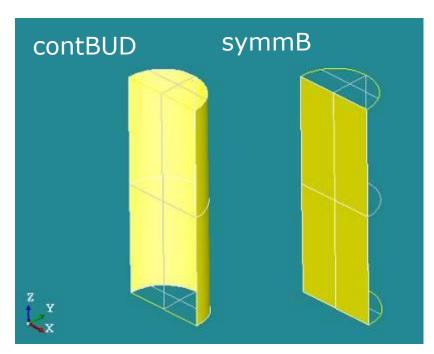


1. モデル作成_7-7 拘束面・接触面の決定

bolt:

ボルト孔に接触する面(円筒面)(contBUD) ボルトの対称面(symmB)

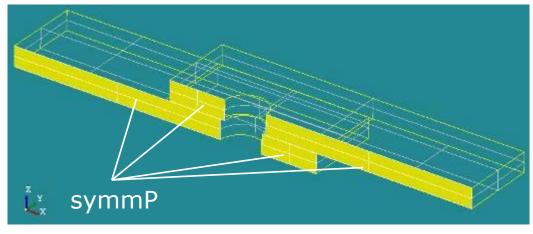
Shape Type: Face Main Shape: bolt



上下の板の対称面 全てをsymmPとする(計4面)

Shape Type: Face

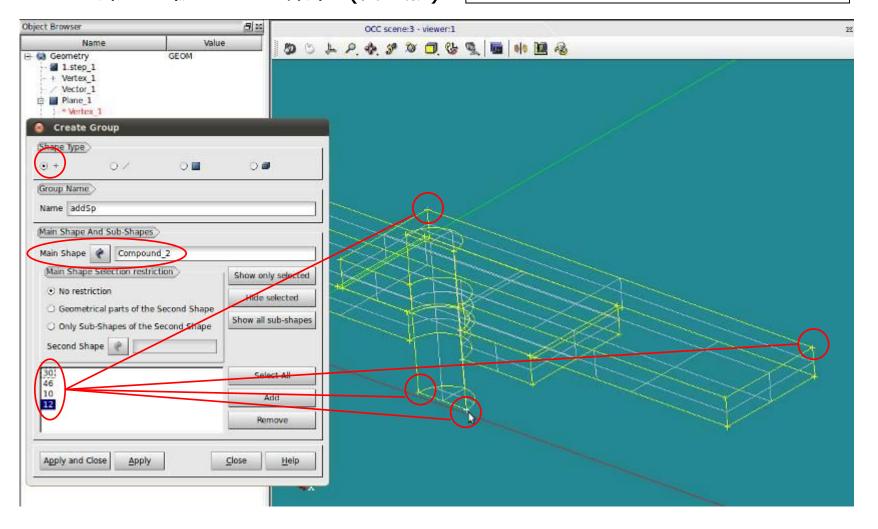
Main Shape: Compound_2



1. モデル作成_7-8 弱いバネの設置

弱いバネ(addSp)を設置する ボルト下部と上板の左右端部 (計4点) Shape Type: Nodes

Main Shape: Compound_2



Geometryの流れ

plateU, plateD, bolt ⇒Volumes

contUB, contDB, contDUB, fix, pull, symmB, symmP ⇒Faces

addSp ⇒ Nodes

Name Value ☐ Geometry GEOM 1.step 1 + Vertex 1 / Vector 1 Plane 1 Plane ... * Vertex 1 - * Vector 1 Partition 1 * 1.step 1 - * Plane 1 **Partition** plateU ⊕ ø plateD B bolt □ Compound 1 * plateU - * plateD Compound 1 * bolt ⊕ plateU plateD B bolt □ Translation 1 - * plateU Translation × 2 ☐ Translation 2 * plateD - * bolt * Translation 1 * Translation 2 plateU * Compound 2 E pull plateD Compound 2 - * Compound 2 contDB ⊕ fix bolt - * Compound 2 contBUD ■ symmB symmP + addSp

Object Browser

Meshへ続く

2. メッシュ作成_1

メインメッシュとサブメッシュ をそれぞれ作成する

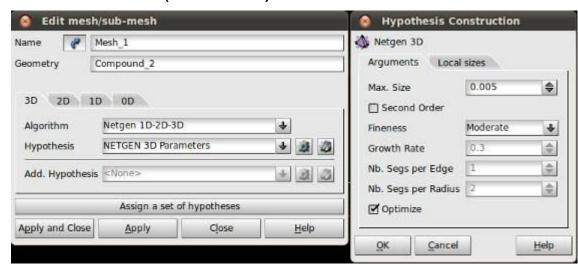
- ・メッシュ Compound_2
- ・サブメッシュ plateU, plateD, bolt
- •アルゴリズム Netgen1D-2D-3D
- ・メッシュ長さ

Mesh: 0.005

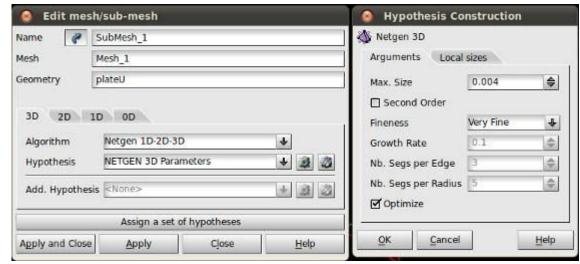
SubMesh: 0.004

※任意の長さ

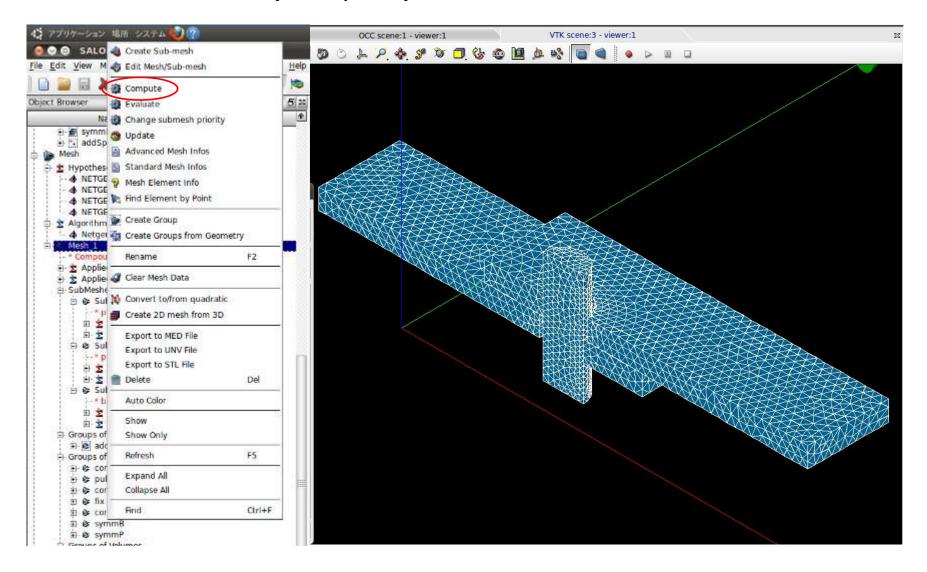
メインメッシュ(Mesh_1)



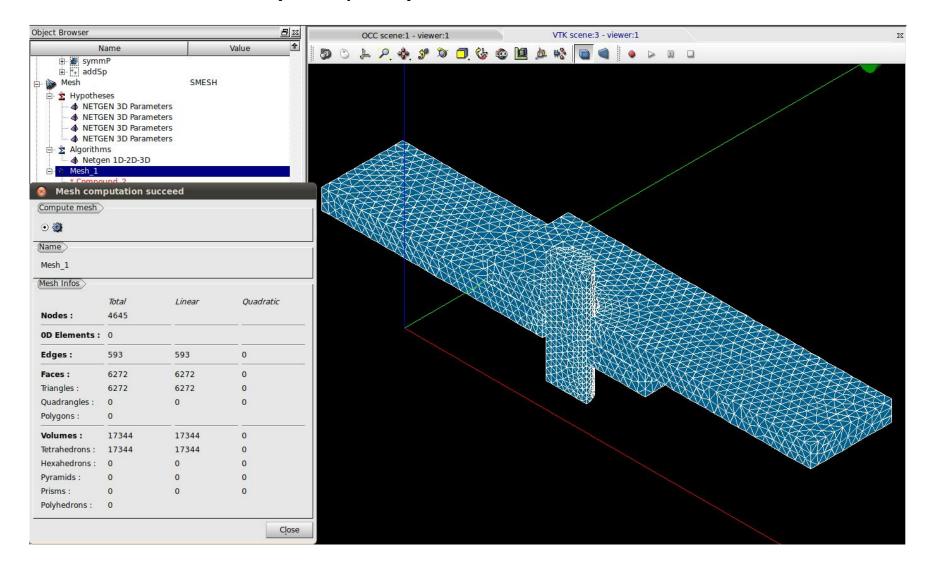
サブメッシュ(SubMesh_1~3)



メッシュを切る(Compute) 要素数:17344 節点数:4645

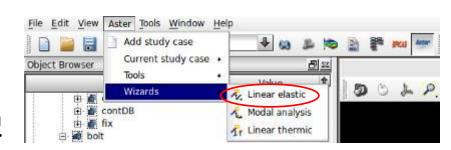


メッシュを切る(Compute) 要素数:17344 節点数:4645



3. Code_Aster_1

Code_Asterの画面に移ってウィザードの選択 WizardsからLinear elastic(線形弾性)を選択



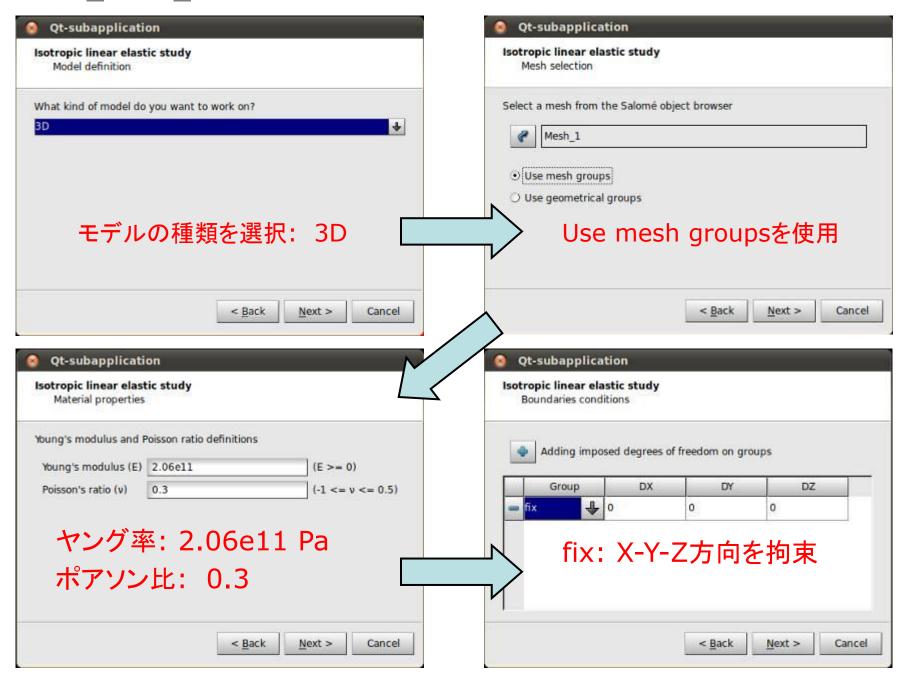
Code_Aster作成の流れ

Wizardでヤング率・ポアソン比を決定し、コマンドファイル(.comm)を作成

⇒Eficasを起動し、コマンドファイルを編集 拘束条件や境界条件、結果の出力項目などを詳細に決定

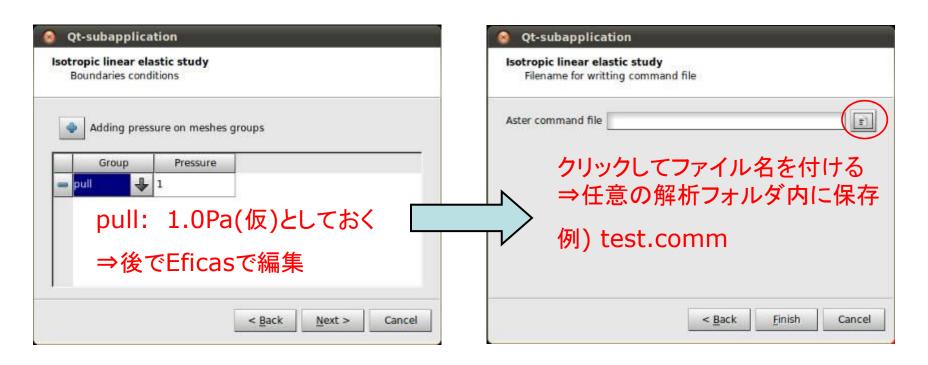
※本解析ではASTKを使用しない

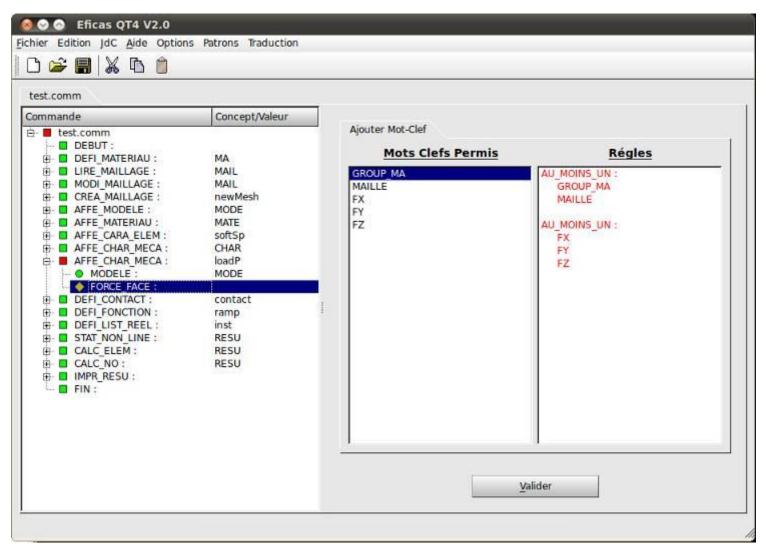
3. Code_Aster_2

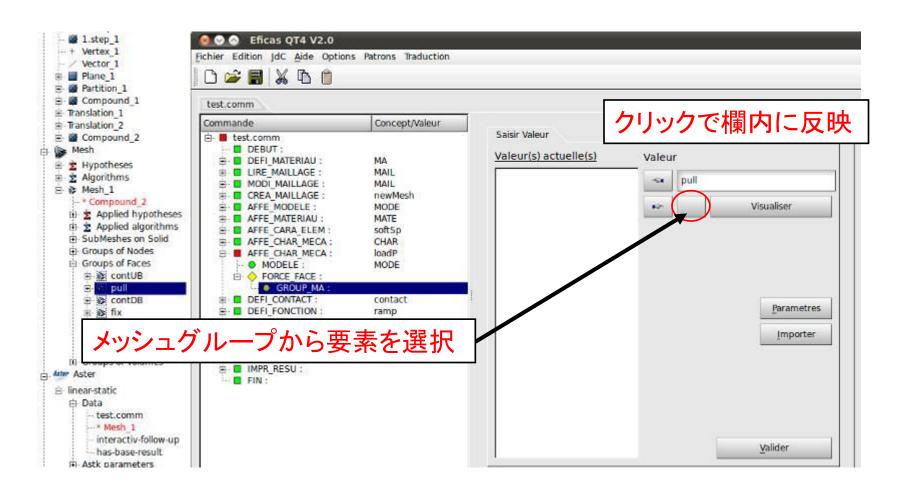


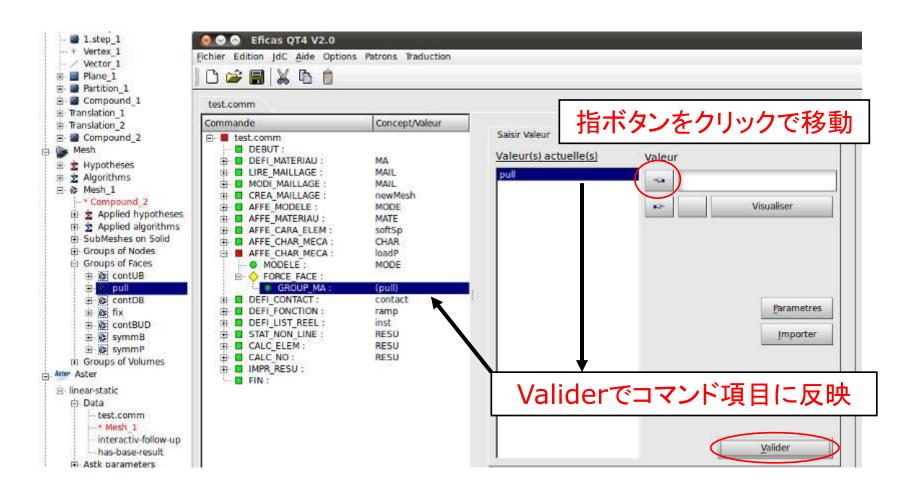
境界条件の設定を簡易的に行う

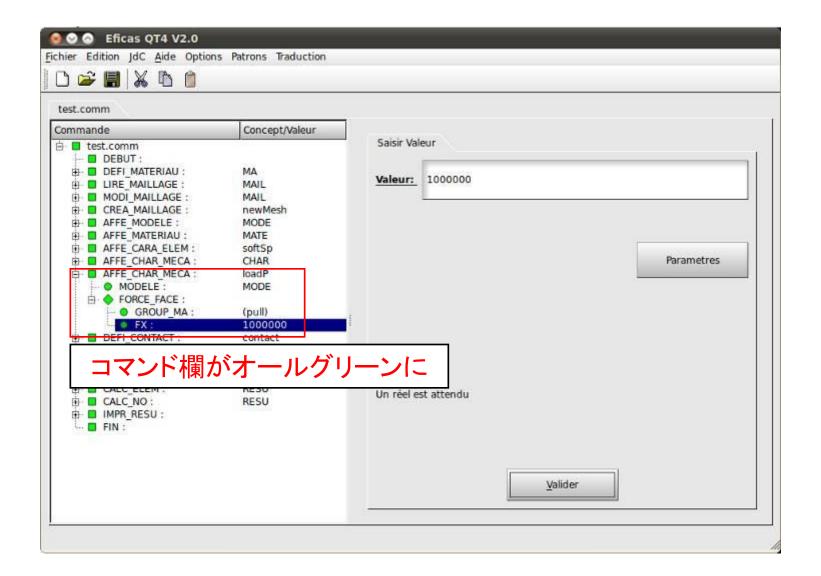
⇒任意でコマンドファイル(.comm)に名前を付けて保存



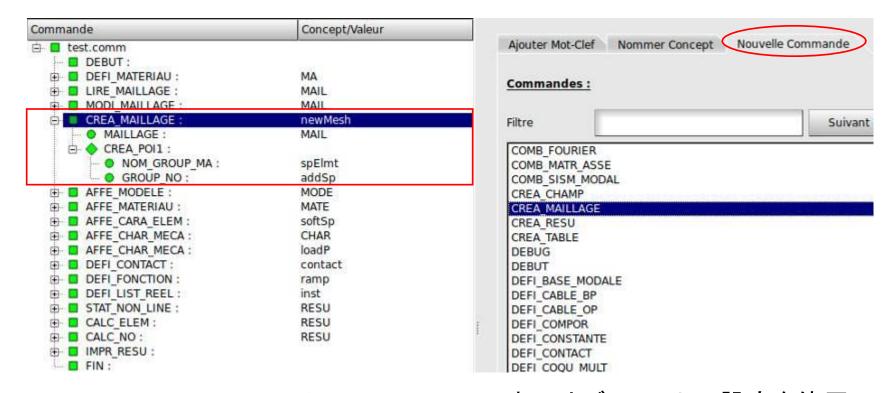








CREA_MAILLAGEの項目編集_1



DEFI_MATERIAU~MODI_MAILLAGEまではデフォルトの設定を使用 CREA_MAILLAGEを、右のNouvelle Commande内から探して追加 CREA_MAIILAGE をダブルクリック

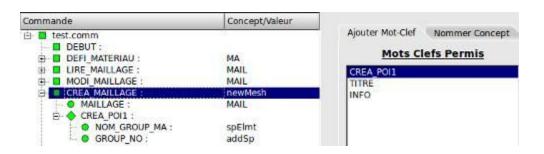
または CREA_MAILLAGE を1回左クリック ⇒Valider をクリック で追加

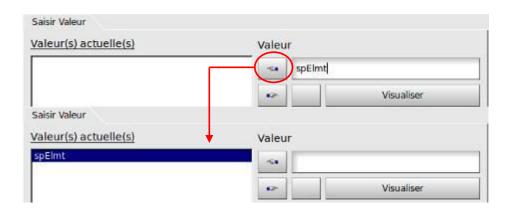
CREA_MAILLAGEの項目編集_2

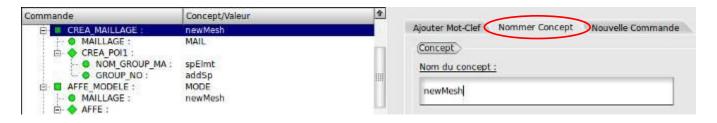
CREA_POI1 を追加 NOM_GROUP_MA を追加 GROUP_NO を追加

NOM_GROUP_MA の編集 弱いバネ(addSp)に spElmt を追加する ※手動で入力

GROUP_NO の編集 メッシュグループから弱いバネ (addSp)を選択し、Vailderで反映



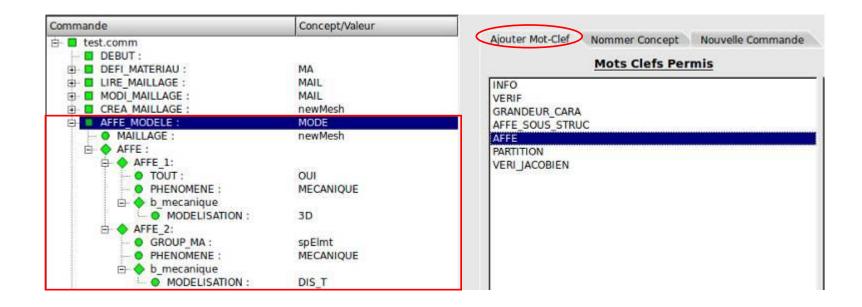




Nommer ConceptでnewMesh(コンセプト)を追加

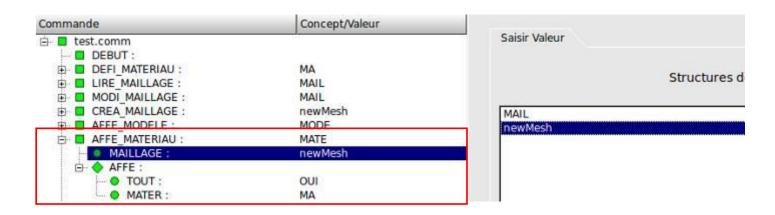
※コンセプト名は任意

AFFE_MODELEの項目編集



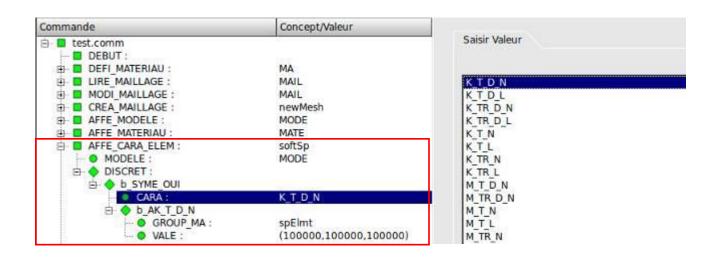
Ajouter Mot-Clefから AFFE を一つ追加 ⇒AFFE_2 GROUP_MA に spElmt を入力 PHENOMENE で MECANIQUE を選択 MODELISATION で DIS_T を選択

AFFE_MATERIAUの項目編集



MAILLAGEで MAIL から newMesh に変更

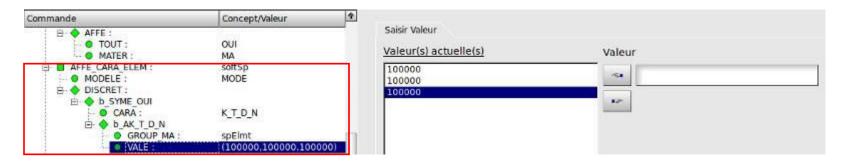
AFFE_CARA_ELEMの項目編集_1



AFFE_CARA_ELEMの項目に DISCRET を追加 CARAで K T D N を選択

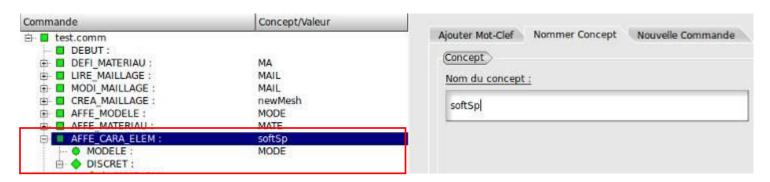
先に追加したPOI1要素に剛性マトリックスを定義
⇒剛性(バネ定数)の値を設定
(Ux Uy Uz)={(kx 0 0)(0 ky 0)(0 0 kz)}

AFFE_CARA_ELEMの項目編集_2



VALE を追加してバネ定数を入力 (kx ky kz)=(1.0e5 1.0e5 1.0e5)

- この剛性マトリックスは変位0に対して働く
- ⇒変位拘束された状態(モデルが弱いバネで吊り下げられている)



Nommer ConceptでsoftSp(コンセプト)を追加

AFFE_CHAR_MECAの項目編集

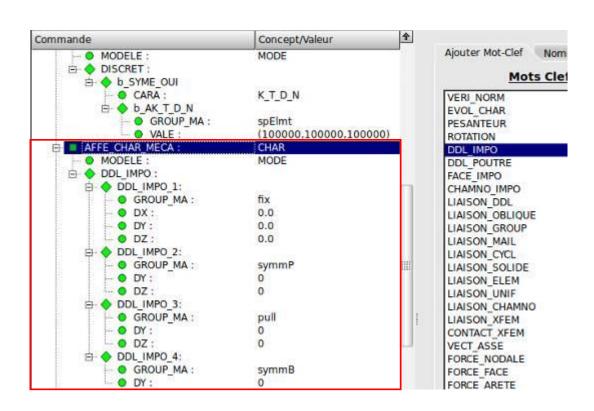
DDL_IMPO を追加して変位拘束条件を定義 DDL_IMPO_1~4 を作成

fix: DX, DY, DZ \Rightarrow 0.0

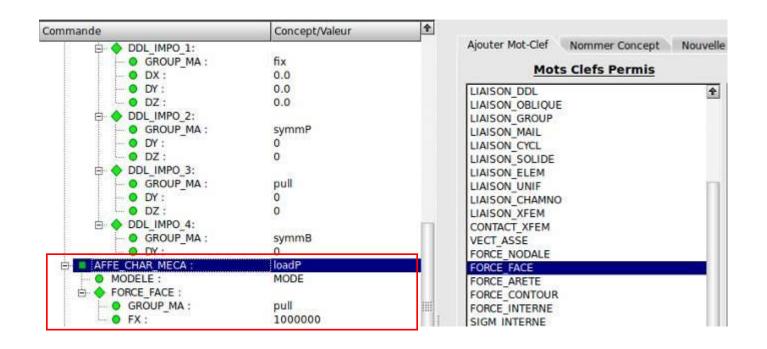
pull: DY, DZ $\Rightarrow 0.0$

symmP: DY, DZ $\Rightarrow 0.0$

symmB: DY $\Rightarrow 0.0$



AFFE_CHAR_MECAの項目編集

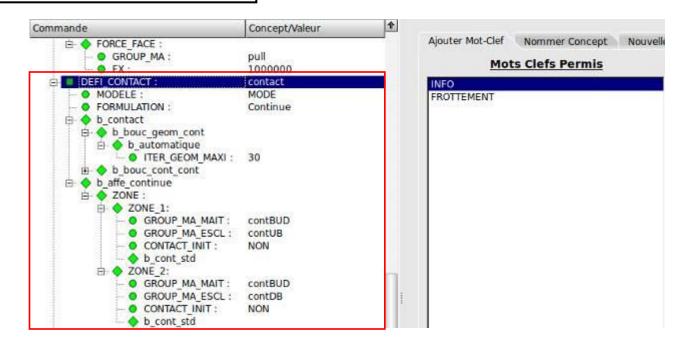


AFFE_CHAR_MECA をもう一つ追加

FORCE_FACE(単位面積あたりの荷重) を追加 GROUP_MA を追加してメッシュグループから pull を選択 FX(X方向に荷重) を追加して荷重を設定 ⇒今回は1.0e6Pa

Nommer ConceptでloadP(コンセプト)を追加

DEFI_CONTACTの項目編集



FORMULATION で CONTINUE を選択

b_automatique で ITER_GEOM_MAXI を 30回 に設定

ZONE を2つ追加 ⇒ZONE_1, ZONE_2

GROUP_MA_MAIT: contBUD(鋼板と接触する面) を選択

GROUP_MA_ESCL: contUB, contDB(ボルトと接触する面) を各々選択

CONTACT_INIT: NON を選択

Nommer Conceptでcontact(コンセプト)を追加

DEFI_FONCTIONとDEFI_LIST_REELの項目編集



DEFI_FOUNCTION(関数定義)

NOM_PARA を追加して INST を選択

VALE を追加して変数を定義

 $\Rightarrow (0,0)(1,1)$ と入力 $\Rightarrow (0,0,1,1)$ で反映される

※荷重を一気にかけるのではなく、徐々に作用させる

DEFI_LIST_REEL

DEBUT を追加して 0.0 と設定

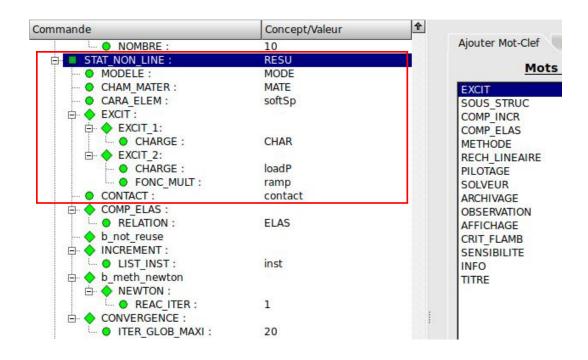
INTERVALLE を追加

JUSQU_A: 1 -

ステップの範囲を0.0から1.0で表し

NOMBRE: 10 」 計算を10分割して行う

STAT_NON_LINE(非線形解析法)の項目編集_1



編集前に

MECA_STATIQUE(線形解析法) を削除する

※MECA_STATIQUE選択後 右クリックでSupprimer ⇒削除 CARA_ELEM を追加して softSp を選択

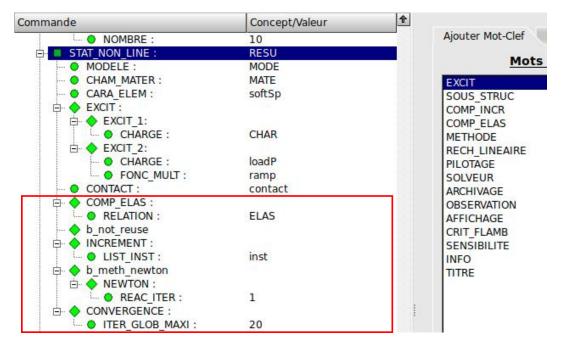
EXCIT を2つ追加して

EXCIT_1: CHARGE に CHAR を選択 EXCIT 2: CHARGE に loadP を選択

FONC MULT に ramp を選択

CONTACT を追加して contact を選択

STAT_NON_LINEの項目編集_2

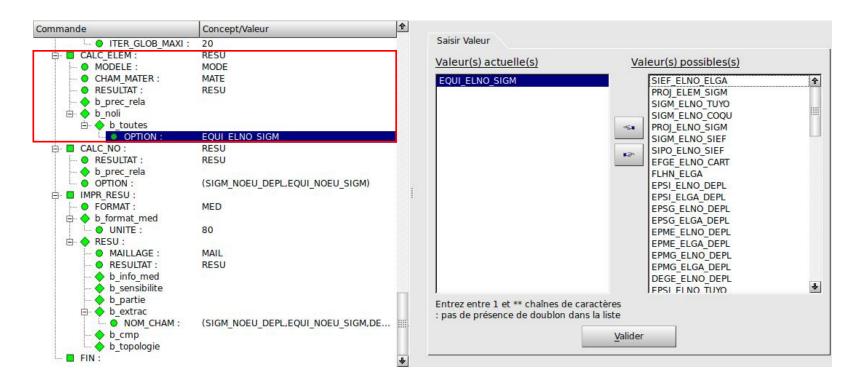


COMP ELAS を追加

INCREMENT を追加 ⇒LIST_INST を追加して inst を選択 b_meth_newton ⇒NEWTON で REAC_ITER を追加して 1 に設定 CONVERGEMCE を追加 ⇒ITER_GLOB_MAXI を追加して 20回 に設定 Nommer ConceptでRESU(コンセプト)を追加

CALC_ELEM と CALC_NO と IMPR_RESU のチェックが赤色に ⇒編集

CALC_ELEM(要素解)の項目編集



b_noil

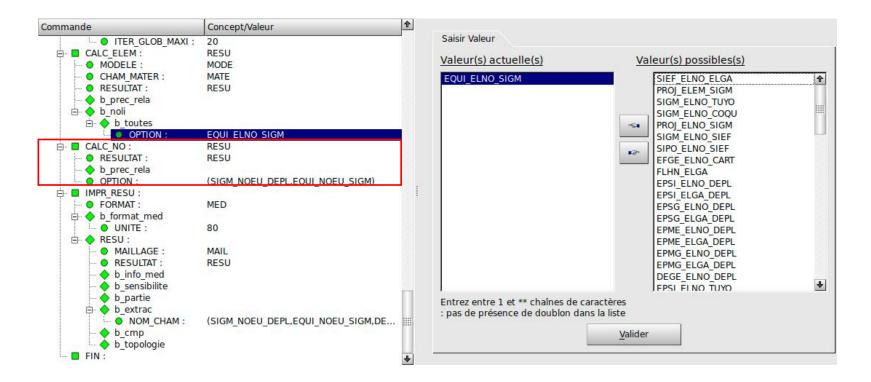
⇒b_toutes

⇒OPTION で Valeur(s) possibles(s)から

EQUI_ELNO_SIGM を選択して追加

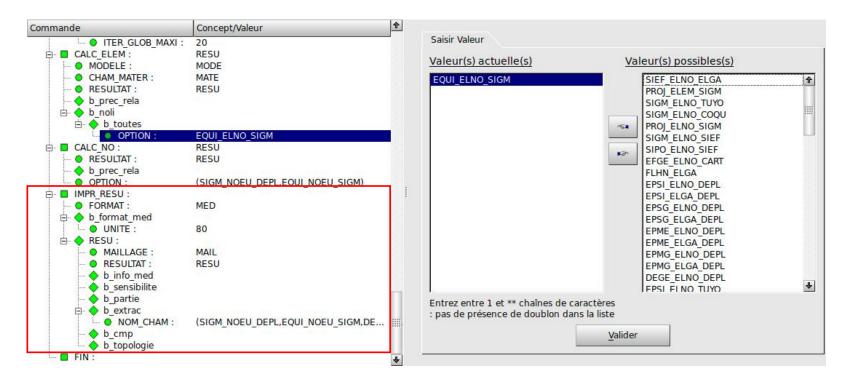
Nommer ConceptでRESU(コンセプト)を追加

CALC_NOの項目編集



OPTION で Valeur(s) possibles(s)から
SIGM_NOEU_DEPL(相当歪)
EQUI_NOEU_SIGM(相当応力) を選択して追加
Nommer ConceptでRESU(コンセプト)を追加

IMPR_RESUの項目編集



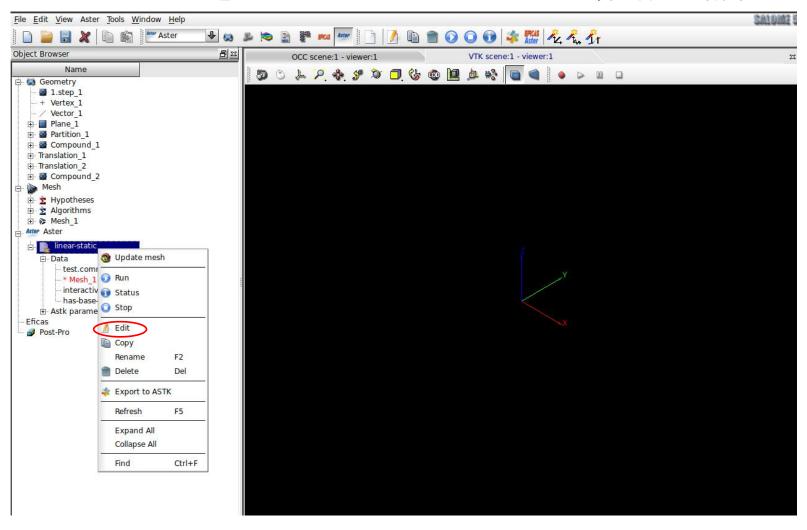
b_extrac ⇒NOM_CHAM で SIGM_NOEU_DEPL EQUI_NOEU_SIGM

DEPL を選択して追加(最初から追加されている場合はそのままで良い)

これでコマンドファイルの編集は終了 ⇒保存してEficasを閉じる

5. 計算実行_1

Linear-static を右クリックしてEdit ⇒メモリと計算時間の編集



5. 計算実行_2

Command file:

作成したファイル名を確認 異なる場合はファイルを<u>直接選択</u>

Mesh:

オブジェクトブラウザから選択 (例:Mesh_1)

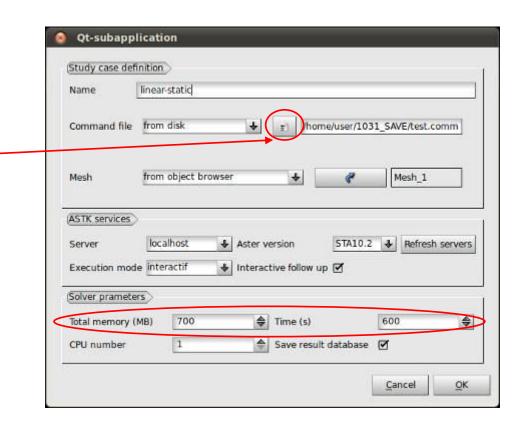
メモリと計算時間:

マシンによって各自任意で設定

※この解析例では

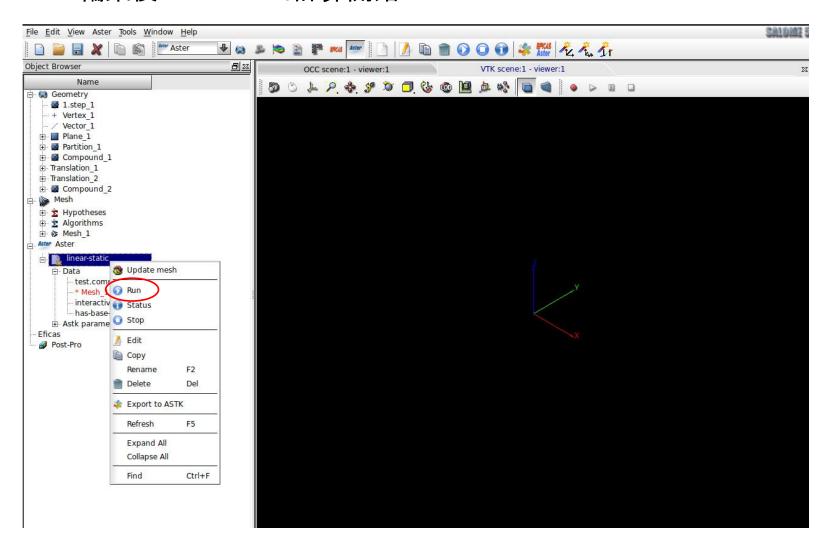
メモリ: 512~700MB程度

時間: 600秒 で十分計算可能

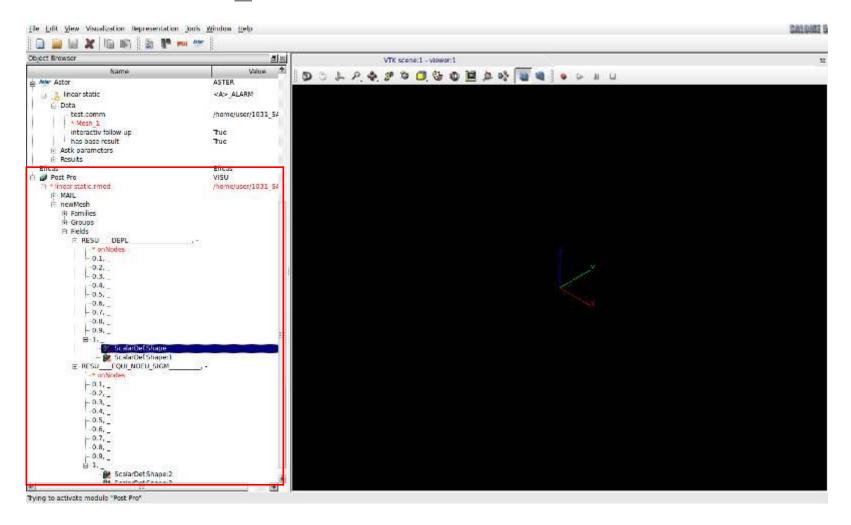


5. 計算実行_3

Edit編集後 ⇒Run で計算開始



6. Post-Proで結果確認_1



計算が成功していればPost-Proから解析結果を視認することが出来る

RESU_DEPL: 相当歪(変位)の結果

RESU_EQUI_NOEU_SIGM: 相当応力の結果

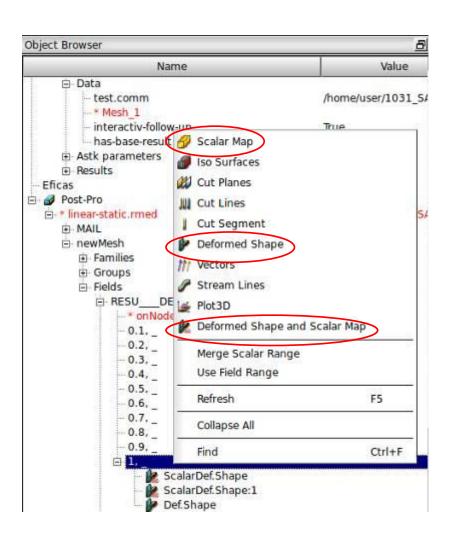
6. Post-Proで結果確認_2

変位の確認: Deformed Shape

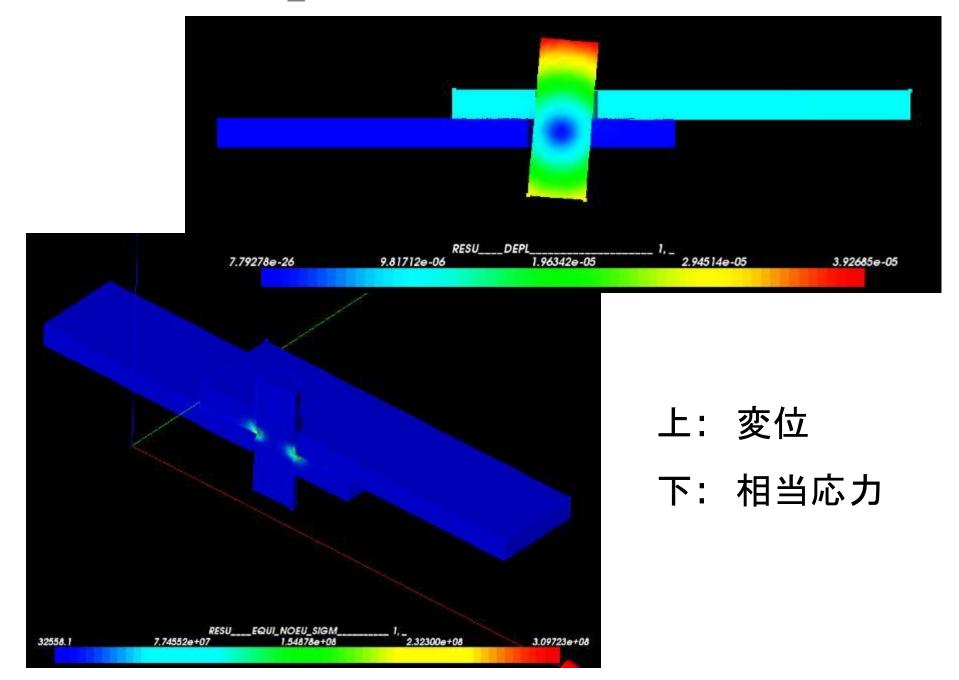
相当応力の確認: Scalar Map

または

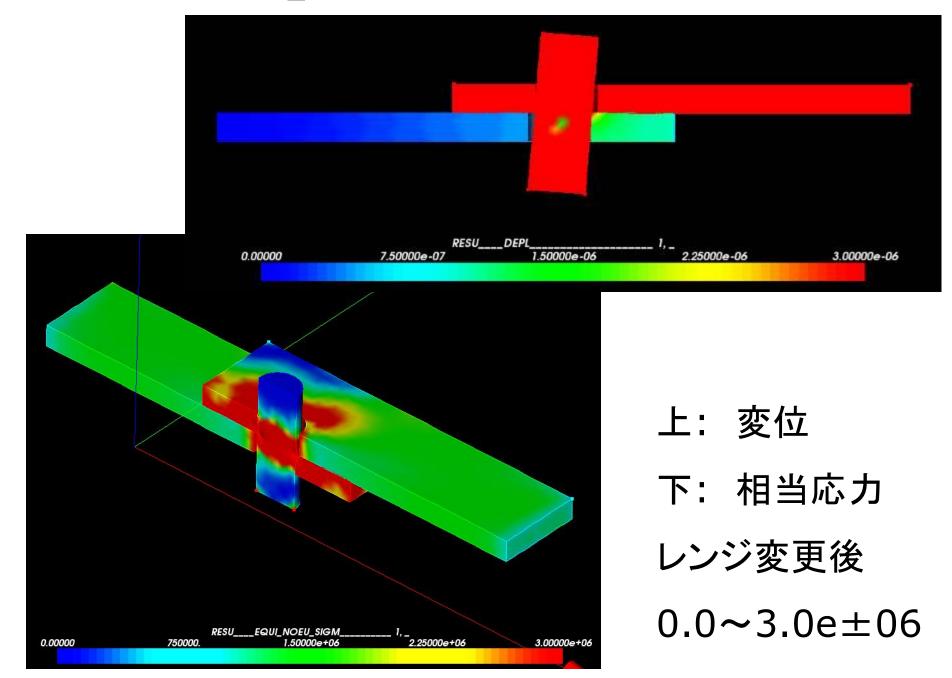
Deformed Shape and Scalar Map



6. Post-Proで結果確認_3-1



6. Post-Proで結果確認_3-2



ご清聴ありがとうございました